

氏名	石 部 陽 二
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1263 号
学位授与の日付	昭和57年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	慢性関節リウマチにおける血小板に関する研究 第1編：慢性関節リウマチおよびアジュバント関節炎ラットに おける血小板の量的・質的異常 第2編：慢性関節リウマチにおける血小板特異蛋白
論文審査委員	教授 木村郁郎 教授 長島秀夫 教授 田辺剛造

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

自己免疫疾患や膠原病における血栓傾向，炎症と血小板の関係が注目されている。そこで，代表的な膠原病であり，慢性の炎症性疾患である慢性関節リウマチ（RA）および動物モデルとして，アジュバント関節炎ラットにおいて，血小板数，血小板粘着能を測定し，RA炎症の他の parameter との関係を検討した。続いて，RA患者の血小板特異蛋白を測定し，血小板機能の解析を試みた。

第1編：RA患者およびアジュバント関節炎ラットにおいて，血小板数，血小板粘着能を測定し，各種炎症の指標との関係を検討した。その結果，RA患者においては，血小板数の増多を認め，血小板数は，血沈1時間値と正の，血中ヘモグロビン値，血清鉄値とは負の相関を認め，血小板数の算定がRA炎症の一指標になると考えられた。一方，血小板粘着能も健常人に比しての有意な亢進と，RA炎症の非常に強い症例での亢進を認め，本症では，血小板は量的，質的に亢進状態にあると考えられた。薬物の影響を受けないアジュバント関節炎ラットにおいても，炎症の程度と比例した血小板数の増加，血小板粘着能の亢進を認めた。

第2編：RA患者において，血小板特異蛋白である， $\beta$ -thromboglobulin ( $\beta$ -TG)をRadio-Immuno-Assayで，血小板第4因子(PF<sub>4</sub>)をheparin-neutralizing-activityで測定した。その結果， $\beta$ -TG濃度は血沈1時間値，血小板数と正の相関を認めた。また， $\beta$ -TG, PF<sub>4</sub>ともに健常人に比しての有意な増加と，CRP強陽性群での弱陽性群に比しての増加傾向を認めた。よってRAにおいては血小板機能は亢進しており，いわゆる血栓準備状態にあると考えられた。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は慢性関節リウマチにおける血小板について実験的ならびに臨床的に研究したものであるが、従来十分検討されていなかった血小板の変化についてその増加、粘着能の亢進を認め、量的質的に亢進状態にあり、又血小板特異蛋白である $\beta$ -thromboglobulin、血小板第4因子の増加を認め、血栓準備状態と考えられる所見を得、重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。